

| | |
|---------------------------------|--|
| 研究課題名 (研究番号) | 前立腺癌手術後生化学的再発例に対する救済放射線治療の 多施設後向き観察研究 (2018028) |
| 当院の研究責任者 (所属) | 綾川 志保 (中京病院 放射線科) |
| 本研究の目的 | 近年、高齢化社会とPSA(Prostate specific antigen、前立腺癌の腫瘍マーカー)検査の普及を背景として、国内において前立腺癌の罹患数が上昇傾向にあります。限局性前立腺癌の根治的治療としては、前立腺全摘除術、粒子線治療も含めた外部放射線治療、小線源治療が主な治療選択肢であり、各患者さんの年齢や合併症、希望などに応じて治療法が決定されているのが現状です。 限局性前立腺癌に対する前立腺全摘除術は、小線源治療や外部放射線治療に対して、比較的若く合併症も少ないまたは軽い症例に施行されることが多く、手術後に再発した場合、以後どのように治療していくかは大変重要です。前立腺癌に対する前立腺全摘術後に、早期に再発を検出する基準として、生化学的(PSA)再発があります。前立腺癌術後生化学的再発に対する救済放射線治療は根治を期待し得る治療ですが、その治療成績に関して大規模な報告は少ないです。 近年は、強度変調放射線治療や画像誘導下放射線治療などの普及により、放射線治療の精度は大幅に向上しておりその治療成績も注目されているのが現状です。 上記を背景として、比較的症例数の少ない前立腺癌術後生化学的再発に対する救済放射線治療について、救済放射線治療後の生化学的無再発割合(救済放射線治療後に、救済放射線治療後のPSAが0.20ng/ml以上にならなかった割合)、救済放射線治療後臨床的無再発割合(救済放射線治療後に、骨転移など再発をきたさなかった割合)、全生存率、有害事象(副作用)について、当院及び名古屋市立大学放射線科の関連病院にて後ろ向きに観察研究をおこなうこととしました。 |
| 調査データ該当期間 | 2005年-2017年 |
| 研究の方法 (使用する試料等) | ●対象となる患者さま 上記期間内に、前立腺癌の手術および救済放射線治療を施行された方 ●利用する情報 背景情報、PSA検査値、画像検査結果、放射線治療内容、治療後経過 |
| 試料/情報の 他の研究機関への提供 および提供方法 | 情報と資料は当院の研究担当者が収集し、情報を匿名化処理した上で名古屋市立大学放射線医学教室内で厳重に保管します。 |
| 個人情報の取り扱い | 学術雑誌や学会で発表されることがありますが、医療情報は匿名化した番号で管理されるため、得られた情報から個人が特定されることはありません。 |
| 本研究の資金源 (利益相反) | 本研究に関連した利益相反事項はありません。 |
| お問い合わせ先 | 電話:052-691-7151 担当者:放射線科 綾川 志保 |
| 備考 | |